

農業総合研究センター かわら版

第36号 平成20年1月28日 発行

山形県農業総合研究センター 研究企画部

〒990-2372 山形市みのりが丘6060-27

電話：023-647-3510

e-mail：nokense@pref.yamagata.jp

研究企画部では、編集に関する皆様からのご意見
ご要望をお待ちしております。

水稻・大豆の原々種、原種の調製作業が大詰め

(農業環境研究部 作物資源開発科)

作物資源開発科では研究開発のほか、水稻・大豆の原々種と原種の種子生産に取り組んでおり、現在、その調製作業が大詰めを迎えています。

農家が使うのは採種圃（山形県産米改良協会及び山形県庄内米改良協会が設置）で生産された種子ですが、その元になるのが原々種と原種になります。農業総合研究センターの圃場でまず原々種を生産し、翌年にセンターの圃場または現地委託圃場で原種を生産します。そしてそれが次の年採種圃に作付され、農家が使う種子になります。従って、種子が農家の手元に届くのに3年かかることとなります。

原々種、原種生産は厳重な栽培管理のもとで生産され、異品種や異種穀粒が混入していないことはもちろんですが、発芽率が90%以上であることなど厳しい審査を経て、合格したものだけが種子になります。さらに水稻の原々種と原種については種子の信頼性をより確保するため、「はえぬき」、「コシヒカリ」、「ササニシキ」、「あきたこまち」、「ひとめぼれ」の主要5品種についてはDNA鑑定を実施しています。

このように原々種、原種については、様々な角度からリスク管理を徹底し、念には念を入れて調製作業を進めています。



原種の審査

アスパラガスの伏せ込み促成技術を開発中！

(農業生産技術試験場 野菜花き研究科)

アスパラガスの伏せ込み促成栽培とは、春に種をまいて育苗した苗を、露地畑に植え、株を養成して、11月に掘り上げ、その株を12月～2月頃まで収穫を行うものです。

これまでの研究で、大株を養成する技術が明らかになってきました。そこで、今年は、大株に育ったものを効率的に多収に結びつけるための試験を行っています。具体的には、覆土処理の方法や、予備加温の仕方、株養成後期における葉面散布の効果などについて検討しています。処理法により、収量が大きく異なることから、収穫量増加に繋がる技術が明らかになることが期待されます。



平成19年度 第1回研究成果検討会 開催!

(農業総合研究センター研究企画部)

平成19年度の農業関係研究成果検討会を開催しました。園芸部門は平成20年1月15、16日に果樹、野菜・花き部会、農事・環境部門は1月17、18日に環境、加工、作物部会に分かれて、畜産部門は1月25日に検討を行いました。

試験研究機関で実施した研究が、農業・産業の発展および県民の生活向上に迅速かつ円滑に活用できるよう、県庁関係課、農業技術普及課等から出席いただき、研究成果情報の技術内容と現場や行政における普及性や活用について検討しました。

“新しい技術の試験研究成果”については、検討会で出された意見を取り入れ、わかりやすく、使いやすい内容に精査した上で、農業技術普及課を通じて提供いたします。また、「やまがたアグリネット」と「農業総合研究センターホームページ」に掲載いたします。

なお、第2回研究成果および20年度研究設計検討会は2月18日から部門ごとに開催します。



県政発信ギャラリーにて研究成果を展示しております!

現在、県庁ロビーにて県政発信ギャラリーとして「山形の農業～期待の新品種・新技術」について展示を行っています。

農業総合研究センター等で開発した品種や生産性向上のため山形県で独自に考案したイチゴの高設ベンチ、水田畑地化のための新しい技術などの説明パネル等を展示しています。

新品種としては期待の米新品種「山形97号」や酒造好適米「出羽の里」、良質・良食味の糯新品種「こゆきもち」、りんご「秋陽」、さくらんぼ「紅きらり」、いちご「おとめ心」など、畜産は県産種雄牛「安秀165」についてパネルにて紹介しています。

1月中の展示となりますので、農業総合研究センターの研究成果をぜひご覧ください。

